

旧宮崎造園所蔵の「かぐらさん」について

長田 隆志

- 1 はじめに
 - 2 かぐらさんの使用事例

- ## 2 かぐらさんの構造について 4 まとめ

1 はじめに

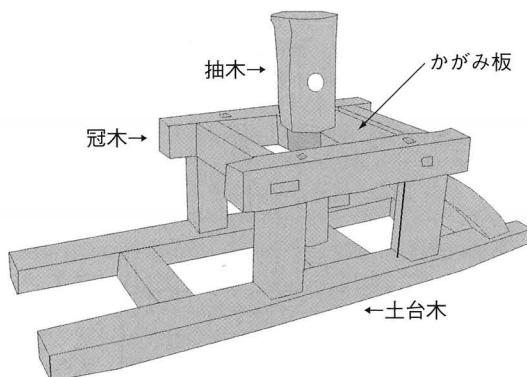
本稿で紹介する資料は（株）宮崎造園の「かぐらさん」で、山から植木の運搬に使用されていたもので、当センターにご寄贈いただいたものである。かぐらさんは、重いものを引いたり持ち上げたりするときに用いた巻上機で、「ろくろ」・「まきろくろ」などと呼ばれている。

実際にどのような際にかぐらさんが用いられていたのかを県内外の事例をもとに紹介していく。

2 かぐらさんの構造について

かぐらさんは、台形型の木枠に太い円柱型の軸木をはめ込んだ形状をしており、軸木を回転させて縄を巻くことで重いものを引いたり、持ち上げたりすることができる道具である。

旧宮崎造園のかぐらさんは、全体が木材で組み合わされており、軸木を支える受けの部分が金属で、一部金属のボルトで補強されている。軸木を回す棒は欠失している。土台木の長さ2300mm、軸木の高さ1150mmを測る。ちなみに香川県牟礼・庵治の大きさは、土台木1782mm、軸木1100mmであり⁽¹⁾、鎌倉時代に滋賀県で鳥居作りに用いられたかぐらさんは、土台木4500mm、軸木2700mmで⁽²⁾、宮崎造園や牟礼・庵治のかぐらさんに比べて大型のものも知られている。



第1図 かぐらさんの構造

3 かぐらさんの使用事例

ここでは、いくつか事例を取り上げながら、かぐらさんの使用事例について触れてみることとする。

（1）県内の事例

- 甲府市 舞鶴公園の謝恩碑建設大正6～10年（1917～21）において、神金村（塩山市）の萩原山で切り出された原石を修羅と呼ばれる木製のソリに載せ、かぐらさんで引きながら運ばれた⁽³⁾。
 - 笛吹市一宮町 金川の森公園内に復元整備されている経塚古墳では、現代のクレーンなどの機械を使用せずにかぐらさんを用いた石室解体調査を平成6年（1994）に行った⁽⁴⁾。

（2）県外の事例

- 新潟県西蒲原郡巻町・北海道伊達市 操業を終えた船を浜に引き揚げるときにかぐらさんが用いられました。これは船が木造であったため、海中に浮かせておくと船が傷んでしまうための対策として用いられた。また、船の引揚げに馬の力を利用していた⁽⁵⁾。
 - 愛知県常滑市 地曳綱の曳綱を巻くためにかぐらさんが使われており、曳き綱が擦れていたまないよう綱を2重・3重に巻いてから使用していた⁽⁵⁾。

4 まとめ

本稿では、従来あまり知られていなかったかぐらさんについて紹介した。かぐらさんは、使用事例から石材の運搬や海沿いを中心に地曳網や船の引き揚げに使用されている事例が多いことが民俗事例として知られている。

しかし、かぐらさんは明治以降の近代化に伴って、機械化が進み、失われつつある。かぐらさん等の民俗資料は、当時の生活のようすを知るために欠かせない道具があるので、先人たちが残した技術を次の世代に残していくために、今後はこうした近代化遺産の保存・活用等を通して資料の収集をしていく必要がある。

参考文献

- (1) 牟礼町教育委員会 牟礼町石の民俗資料館 1998『牟礼・庵治の石工用具』—重要有形民俗文化財—
 - (2) 北垣聰一郎 1983『石積み技術』『古代日本の知恵と技術』大阪書籍 朝日カルチャーブックス28
 - (3) 甲府市 1990『写真集 甲府物語』—市制100周年記念—
 - (4) 山梨県教育委員会 1995『経塚古墳』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第109集
 - (5) 須藤功 1988『とる・はこぶ 写真で見る日本生活図引』②弘文堂

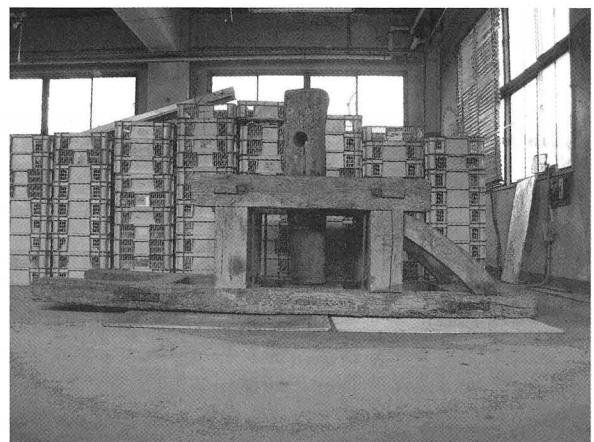


写真1 旧宮崎造園所蔵のかぐらさん

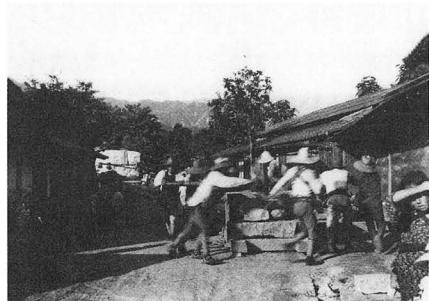


写真2 謝恩塔碑の石材運搬 (山梨県)
(甲府市 1990 引用)

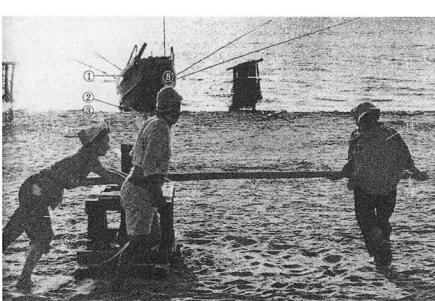
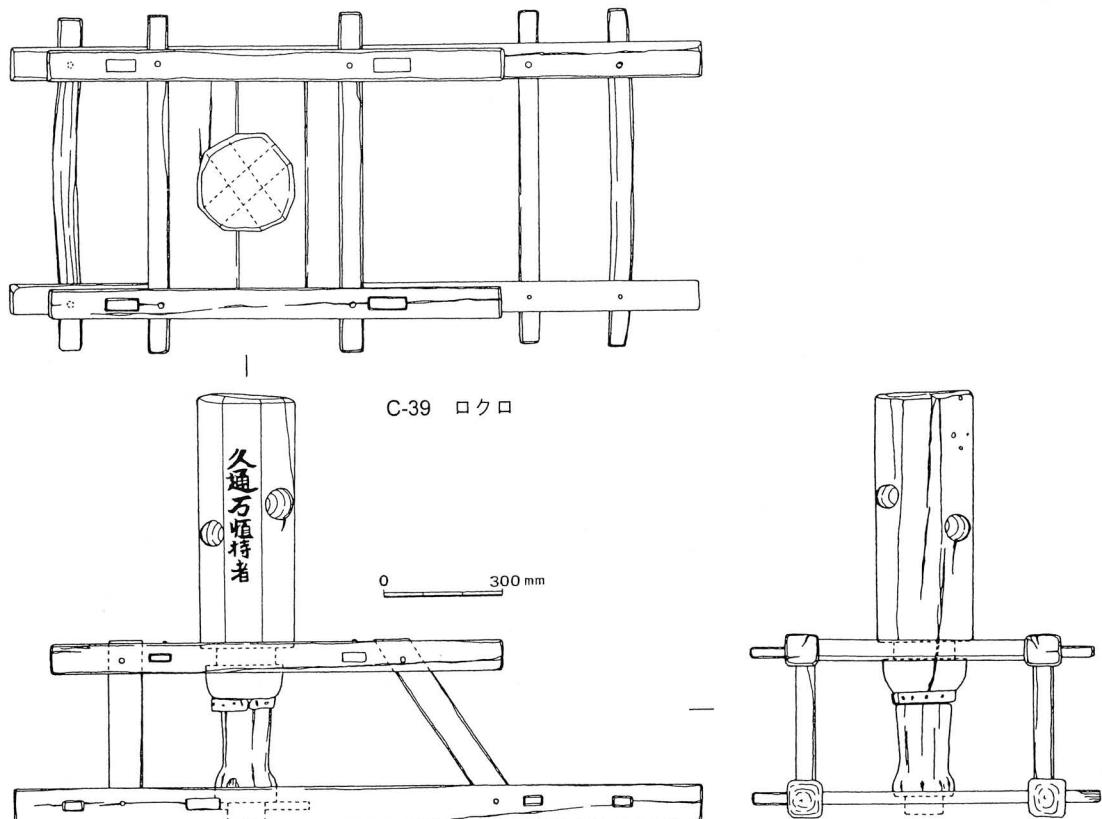


写真3 船の引揚げ作業 (新潟県)



写真4 船の引揚げ作業 2 (北海道)
(写真3・4は、須藤功 1988 引用)



第2図 牟礼・庵治のロクロ
(牟礼町教育委員会 牟礼町石の民俗資料館 1998 引用)